

北信地域障がい福祉自立支援協議会 議事録

部会名 令和7年度 第2回 精神部会

開催日時 令和7年7月15日(火)13:30~15:00

参加者所属機関名等

北信保健福祉事務所健康づくり支援課、北信保健福祉事務所福祉課、中野市福祉課、飯山市保健福祉課、山ノ内町健康福祉課、木島平村民生課、野沢温泉村民生課、栄村民生課、北信総合病院、佐藤病院、りんごの木共同作業所、NPO ここから、飯山市地域活動支援センター、つくしの家、クローバー、未来工房つむぎ、訪問看護ステーションせせらぎ、デイホームこころ、北信圏域障害者生活支援センター、ほくしん圏域就業・生活支援センター、北信圏域障害者総合相談支援センター

本日のテーマ、課題等

- ①開会 ②第1回北信地域障がい福祉自立支援協議会（総会）の報告 ③事例検討 ④その他
⑤閉会

会議で話し合われた事

1. 開会

- ・ 部会長より開会の挨拶があり、保健師実習生の見学について併せて紹介があった。

2. 第1回北信地域障がい福祉自立支援協議会（総会）の報告

- ・ 株式会社ネクサス（グループホーム傳習館）が新たに協議会委員として承認された。協議会長・各部会長の承認が行われ、令和7年度の活動が正式に開始された。第7期障害福祉計画との関係性について確認があり、各部会の活動が計画進捗と連動していることが示された。

3. 事例検討

（1）事例提供

- ・ 佐藤病院・ケアホーム希望・クローバーより、長期入院から地域移行に向けて支援が継続されている対象者の事例提供があった。対象者の病歴・症状経過・地域移行支援の歩みについて共有。

（2）意見交換

- ・ 「なぜ地域移行がうまく進んだのか」をテーマに、グループワーク及び全体共有を行った。

① 本人の特性・意思

- ・ 「家で暮らしたい」「仕事がしたい」という具体的な生活イメージが明確であった。
- ・ 指導・助言を素直に受け入れられる姿勢があった。
- ・ 過去経験を踏まえ、自分を客観視できていた。

② 支援者の関わり方

- ・ 本人のペースに合わせ、段階的な支援を行った。
- ・ 小さな成功体験を積み重ね、自己効力感を育んだ。
- ・ 得意なこと（PC・調理等）を活かせる環境を整えた。
- ・ ハローワーク・就労支援・医療等との連携が継続した。

③ 環境要因

- ・ デイケア等により生活リズムが維持されていた。
- ・ 医療と地域支援が密に連携し、橋渡しが途切れなかった。
- ・ 支援者間の顔の見える関係が構築されていた。

④ 家族

- ・ 家族が「一緒に暮らすことは難しい」と現実的に線引きしたことが、移行目標の明確化につながった。
- ・ 本人のやりたいことを受け入れ、応援する姿勢があった。
- ・ 会議等を通じ、家族と病院・支援者間で認識を共有できていた。

⑤ 今後の支援に向けた検討ポイント

- ・服薬管理・体調変化のモニタリングのため、訪問看護の活用が有効である。
- ・一人暮らし移行に向け、不調時の対応先・連絡体制の可視化が必要である。
- ・支援機関間の引継ぎ・連携体制の確立が重要である。
- ・過去の金銭管理困難の経緯から、後見・信託等も含めた金銭管理支援を検討する。

⑥ まとめ

- ・今回の移行は、本人の力だけでなく、医療・福祉・家族が伴走しながら環境が整ったことが大きい。地域移行は時間を要するが、長期入院を予防する段階からの支援関与が重要である、との意見が共有された。

4. その他

5. 閉会